

アートディレクター、クリエイティブディレクターである佐野研二郎さんは2007年末に博報堂を退社。2008年1月11日に新会社「MR DESIGN」を渋谷区神宮前に設立した。オフィスは白を基調にすっきりとしたシンプルで開放的なデザイン。広さは約100平米ある。佐野さんと同年の築35年という偶然と、立地条件も踏まえて決めた。ビルのオーナーとも親しくなり、リノベーションは自由にできたという。そのため、通常難しい廊下等の共有部についても、特別に改装を許可してもらった。内装・外装も共に白。窓が多く、開放感のあるオフィスはとても明るく、居心地がよい。



## いい仕事は、いい環境から 「自由」と「責任」を誰よりも楽しむ 佐野研二郎 (MR DESIGN)

スッキリと集中できる環境づくり

空間デザインにあたり、佐野さんが大切にしたのは「気合いが入って集中できる」緊張感と心地よさの同居だった。そのイメージを具体化すべく、設計は、建築家の荒内要さんに依頼し2人で細部までデザインしていった。中央にどんと構えるテーブルは、支点を中央に3本足の設計。パーテーションも兼ねるキャビネットにはキャスターが付いており可動式だ。パソコンに繋ぐケーブル類は全て床に隠している。「収納を増やしてオフィス内の余分なものは全てなくし、進行中のデザインを冷静に見れるようにしました」。パソコンは30インチの大型ディスプレイを3台揃え、座る位置とディスプレイの視聴距離が1mになるように設計。「ディスプレイの画面サイズが大きいと目を離して見なければならぬから、姿勢も良くなるし、ゆったり見えるということは仕事に対する姿勢にもゆとりが生まれます」。余計なものを置かないから、集中しやすく結果的に仕事の能率が向上するのだ。

独立して初めて大人になった

「僕は独立して初めて大人になったような気がします」と佐野さん。独立を決めたのは2007年の秋。ギンザ・グラフィック・ギャラリーとガーデン・ガーデンでの個展を通して、社外の人と会う機会が増え、強い刺激を受けたという。独立後、生活は大きく変わった。「博報堂の頃は、プリンタやパソコンのランニングコストも考えたこともないし、環境にコストをかけるなんてことはまず考えなかった。深夜まで時間をかけて仕事していた頃に比べて、いまは朝9時にオフィスの掃除から始まって、夜も終わりの時間を決めて集中してデザインするようになりました。それも健康面を含めて全て自分に責任がかかっているからです。良い制作環境をつくるのは、実は全てととってもいい」。仕事のオンオフの線をきっちり引くことで生活にもゆとりが生まれ、よりデザインが明快になった。「独立して、やりたいことが増えました。他分野の人と会う機会も増えましたし、クライアントとも直に交渉することになり、いい関係が築けています。